1. 日頃の練習の成果を発揮。徒競走でも全力疾走 /2.「楽しく本気で、各種目に臨みます」応援団長による選手宣誓 /3. 大人も参加した柱沢ウルトラクイズ。難問を勝ち抜き、豪華景品を目指す /4. 玉入れ種目がバージョンアップ。横から投げ入れ、ナイスピッチング！

「最後まであきらめない」

５月は市内の多くの小学校で運動会が行われました。この日に向けて一生懸命練習してきた児童たちの元気な姿が見られ、応援する家族からも大きな声援が響き渡りました。そのうち柱沢小学校では、柱沢地区大運動会が開催されました。児童代表による選手宣誓から始まり、応援合戦や各種競技で紅組、白組どちらも負けない気迫を見せていました。全学年 33 人と地域住民が一致団結し、児童からは「一生懸命走れてよかったです」といった声も聞かれました。児童たちにとって、今年の運動会もかけがえのない思い出の一つとなりました。

市長コラム　第67回

「消滅可能性自治体とされた伊達市」

須田博行

過去のコラム ▶

民間有識者でつくる「人口戦略会議」は、全国の４割の自治体が２０５０年までに消滅する可能性があるとの報告書を公表しました。20～39歳の女性が50％以上減少するとの理由から「消滅」と分析したもので、福島県でも震災と原発事故の影響が大きい浜通りを除く７割の自治体が該当し、伊達市も消滅可能性自治体とされました。

人口減少にはさまざまな背景があり、若年女性の動態だけを根拠とした結論には大いに疑問がありますが、〝若者流出〟が伊達市の大きな課題なのは間違いなく、危機感を持って対策に取り組まなければならないと重く受け止めています。

さて、今回の人口戦略会議の報告は、２０２０年以前のデータを用いて将来予測をしていますが、伊達市における直近の５年間（２０１９年～２０２３年）のデータを見ると、30代女性の転出が減り転入が増えるいわゆる「転入超過」の傾向がより強くなっています。子育て施策や住環境整備の効果が現れているともいえます。しかし、就職を契機に20代若者の転出が依然として多く、特に女性の転出超過が多数となっています。

若者が定住するためには働く場の確保が重要であり、特に女性の就労環境の改善が鍵となります。北欧諸国など、女性の就業率が高い国ほど出生率が高いというデータもあります。人口減少対策は、女性が社会で十分能力を発揮できる環境が不可欠であり、これができないと消滅可能性が現実となるのだと思います。

伊達市ではこれまで、３つのＰｌａｃｅ（場所）の整備を進めてきました。「働く場」としての工業団地、「子育ての場」としてのこども園や児童クラブ、「楽しむ場」としての交流施設や大規模商業施設などなど。これからも、男女問わず安心して働ける環境整備を進め、若者の転入超過により「消滅可能性自治体」からの脱却を図ってまいります。

編集・発行　伊達市総務部秘書広報課　令和6年6月27日発行　NO.221
〒960-0692 福島県伊達市保原町字舟橋180番地　TEL024-575-1113　FAX024-575-2570　印刷・製本　株式会社　CIA